

英佛獨米の鐵及石炭に就て

井上禧之助

今年六七月頃日本の鐵石炭石油の自給に付きまして、どうしたら宜からうかと云ふやうな漠然たる話があつたのであります。其時に、私は標準をどこに置くかと申したのであります。獨立自給と言ひましても、鐵で申しますれば百萬噸でも獨立であれば、千萬噸でも獨立は出來ぬと思ひます、石炭にしても二三千萬噸、或は一億萬噸或は五億萬噸各國に依つて違ふのでありますから、どこに標準を置くかと云ふやうなことを申しまして、遂に大きい方の話になりまして、大きいものを一つ拵へて見やうと云ふことになり、世界の鐵石炭：石油は今日は申しませぬが、鐵石炭の大量に産出する四大國の産出額を表に拵へそれに簡單な説明を附加へ七八月頃に出來上りました、其當時三菱本館に居りましたから、河村會長に、之を御見せ申したら、九月の講演會に一人の講演者が決定して居るから之を話す様にとのことで、遂に引張り出されたのであります。今日は：或は多少脱線するかも知れませぬが、簡單に圖の説明を申上げるに止める積りであります。何が故に鐵石炭石油：石油は暫く措きまして：鐵石炭を選んだかと申しますと、御承知の通り鐵石炭の使用量が非常に多い、鐵は銑鐵で一年の産出額が七八千萬噸で總ての金屬の産出額の九十六パーセントを占めて居る有様であります。石炭は一年の産出額が十二三億噸である、さうして鐵と石

炭とは姉妹關係と申しまするか、夫婦關係と申しまするか、相伴つて居りますので、アイアン・ゴース・ツィ・コイルと云ふ如く鐵は寧ろ石炭の方に引付けられ石炭のあるところで製鍊せらるるのが普通であります。

鐵と石炭とを多く産出しまする國は英吉利、獨逸、佛蘭西、亞米利加合衆國（以下單に亞米利加と稱する）であります、其中で英吉利獨逸は鐵鑛を輸入し、佛蘭西は鐵鑛を輸出して居る。

唯次の圖の説明だけ申上げる積りで亞米利加、英吉利、獨逸、佛蘭西に就てだけ申上げます。

亞米利加から先に申上げますが、亞米利加と云ふ國は御承知のやうに歐羅巴より遅れて起りました國で、今度の戰爭では其國境に變化はないのであります。少し脱線しますが簡單に此國が大きくなつた徑路を申しますと此國は千七百七十六年東部十三州が獨立を宣言したのが始まりで、千八百三年までは東部の十三州でありました、千八百三年にルイジヤナを佛蘭西から買収した、此價格が三百七十五萬弗、安いものであります。其次にフロリダを西班牙から五百萬弗で買収したのが千八百十九年であります。千八百四十五年にテキサス共和國を合併して州としたのであります。千八百四十八年墨西哥から譲り受けたのが、西の方の大部分で現在のカリフォル

ニア、ネグアダ及ユトー并にコロラド、アリゾナ及びニューメキシコの一部であります。此價格が千五百萬弗で、初め三百萬弗拂ひ爾後年々六歩の利を付けて三百萬弗づつ拂ふたのであります。千八百五十三年に再び南の方を墨西哥から買ひました此價格が一千萬弗であります。これで亞米利加合衆國の本體が出来上つたのであります。是から本國を離れて、千八百六十七年、アラスカを露西亞から買收し、布哇が千八百九十八年に合併せられポルトリコ、グアム、フェリツピン諸島が千八百九十八年西班牙から讓渡せられフェリツピン群島に對して西班牙に二千萬弗を支拂ひサモアが千八百八十九年、ウエーク島、是は發見したのであります。千八百九十九年に其有となり千九百年に十萬弗で西班牙からボルネオの北の小群島を買收した、千九百三年、巴奈馬の地峽地方を巴奈馬共和國から千萬弗で買收し其上年々二十五萬弗を支拂ふたのである。千九百十六年丁抹から二千五百萬弗で西印度諸島中のヴァージン島を買收した、此外グアノ島ナザアサ島サモア島スウアン島、トンカ島、ランジエル島クリスマス島等亦其領域に入り最近ヤップ島のことは吾人の耳目に新なるところであります。斯う云ふ工合に亞米利加合衆國は大きくなつたのであります。

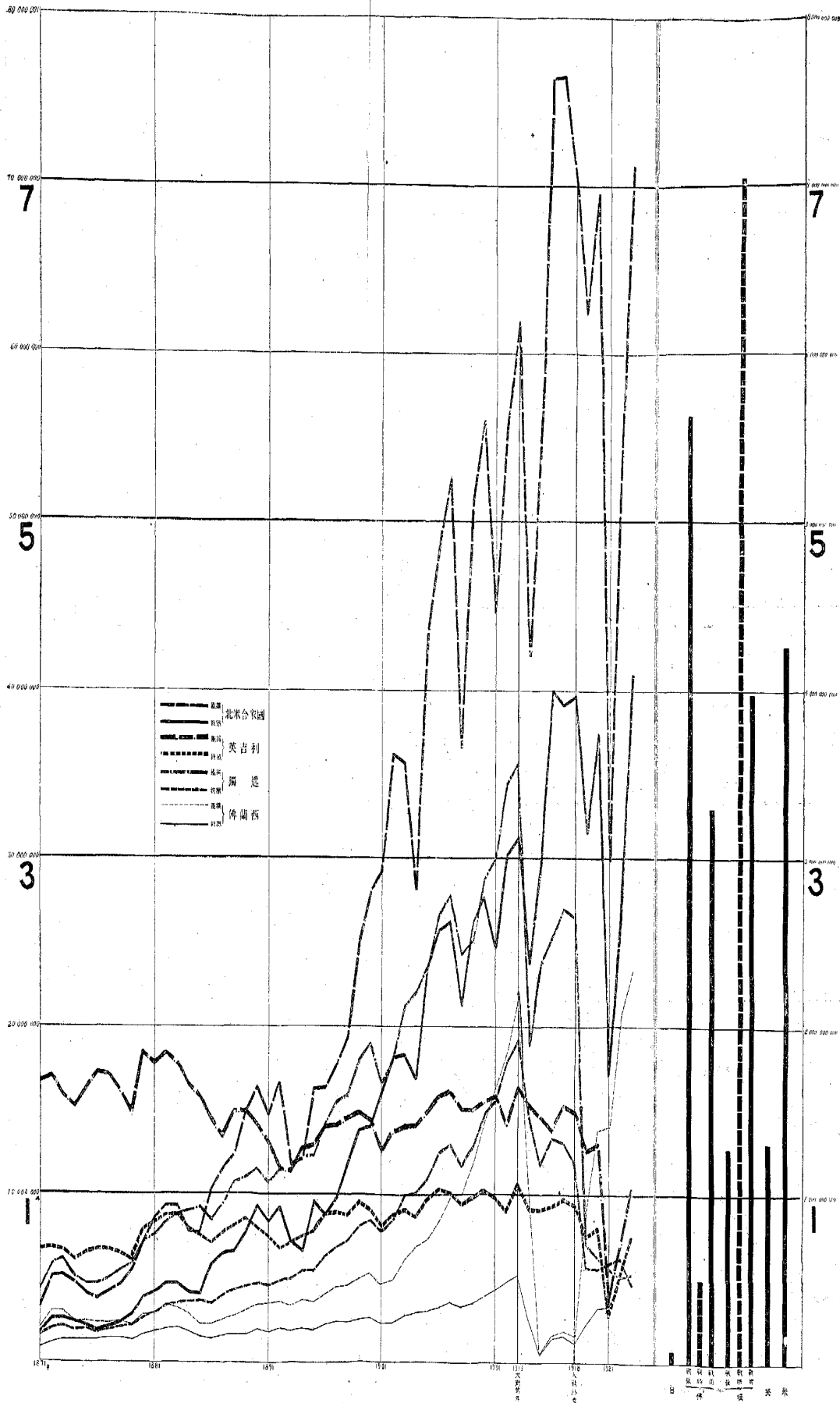
此國には鐵石炭の埋藏量が非常に多い爲であります。遲れて興つたのであります。非常に發達が速かでありまして、普佛戰爭後の千八百七十一年には産出額は英國に較べまして鐵鑛が約其五分の一、銑鐵が約四分の一、石炭が約七分の二でありましたが、千八百九十年には、鐵鑛及び銑鐵で、千八百九十九年には石炭で英國を突破して居るのであります。

それは次圖で明かに分るのであります。

英國は歐米の先進國で御承知の通り非常に早く發達した國でありまして、普佛戰爭頃既に、或は最高に達したと申しても宜いかと思ふ程發達をして居るのであります。其當時の有様を見ますと、獨逸にしても、亞米利加にしても逆も追及することは出来ぬやうな有様でありましたが、埋藏量が比較的に少ない故と思ひますが、鐵鑛は前に申しましたやうに千八百九十年に亞米利加に、千八百九十六年に獨逸に、千九百十一年に佛蘭西に越されて、此三國より産出額は少なくなつたのであります。銑鐵は千八百九十年亞米利加に千九百三年獨逸に越され、石炭は千八百九十九年に亞米利加に越され、獨逸は殆んど之に追及せんとする勢を示した、佛蘭西は遙かに少いのであります。是は英吉利本國のことで、植民地及び自治領のことは、には申上げません。

獨逸となりますと、佛蘭西との關係がかなり複雑であります。獨逸は御承知のやうに英吉利佛蘭西に後れて興つた國であります。此國は御承知のやうに學問技術の研究に非常な努力を致し、其結果は工業の勃興となり、急速の進歩を致しまして、殊にルール地方が發展をしまして鐵鑛の需要が急でありまして普佛戰爭の目的の一つは佛蘭西ローレンの鐵鑛にありと稱せられて居ります。此國の發展の徑路を見ますると千七百六十三年——是が七年戰爭の後、上部シレジャを奧地利から獲得し、千八百十五年奈翁戰爭後ザールを地質學者ベツキング人の説に依つて佛蘭西から割讓せしめ千八百七十一年普佛戰爭後佛蘭西からアルサス・ローレンスを獲たのであります。此ローレンを領域に入れるに付きましては鐵鑛を

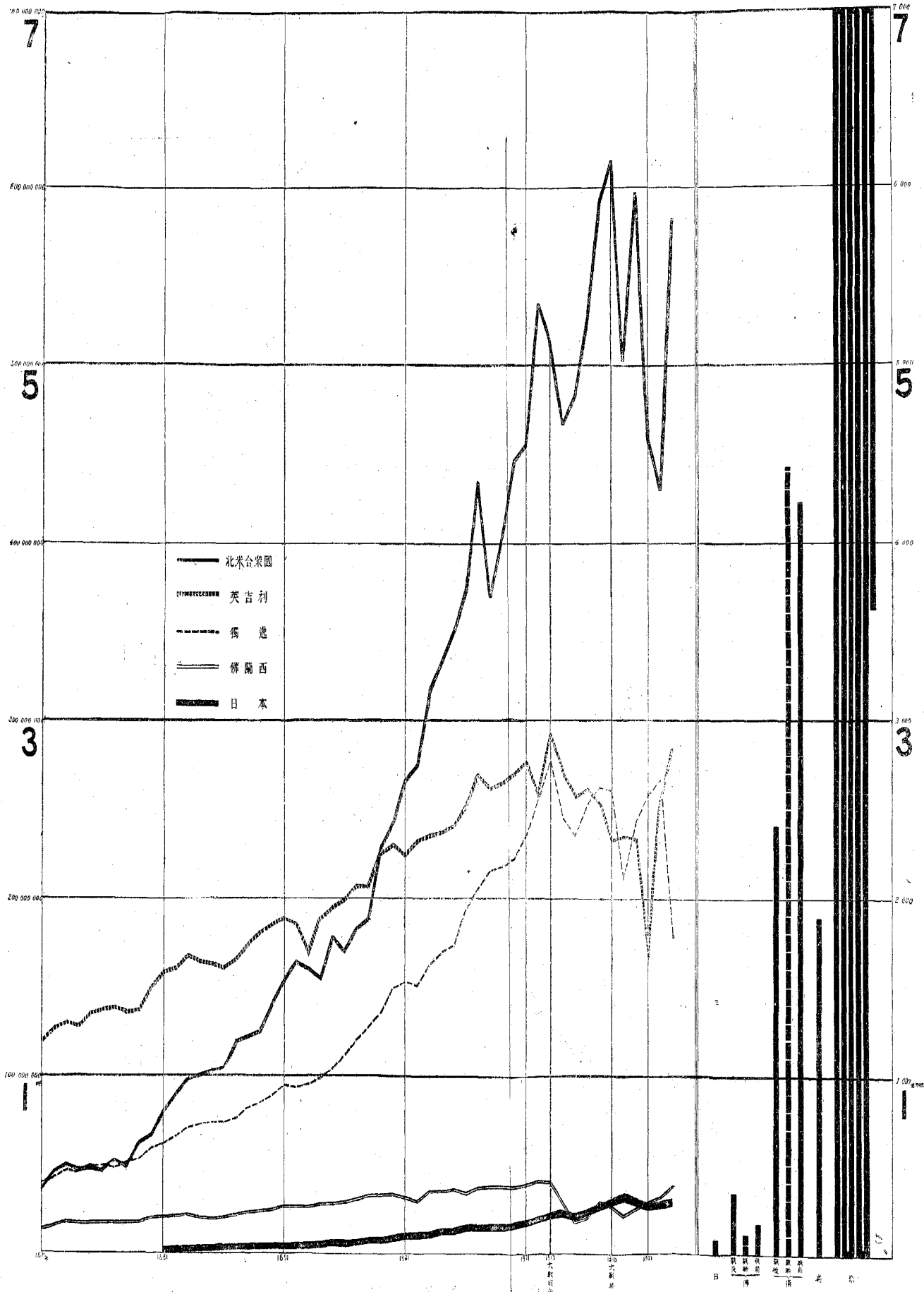
鐵鑛埋藏量、鐵鑛及銑產出額



鐵鑛及銑產出額

鐵鑛埋藏量

石炭埋藏量及產出額



石炭產出額

石炭埋藏量

目的としたのであります。此等の事柄は長くなりますから申しませぬ。斯く本國の地域が大きくなりますと共に、海外へも發展致しまして、東阿弗利加、南西阿弗利加、トーゴ、カメルン、其他南洋の方に領地を持つやうになつて大戦前の獨逸の發展は目覺しきものであつたのであります。

斯く獨逸は發達を致し、其本國に於ける鐵石炭の埋藏量は英吉利より遙かに多いのであります。先程申しましたやうに鐵に於きましては既に英吉利を凌駕し、石炭に於ては大戦前に英吉利に當さに追及せんばかりになつて來たのであります。

ところが今度の大戰の結果非常な打撃を受けまして、アルサス・ロレーンは佛蘭西に返し、ザールは佛蘭西の管理になり、上部シレジアは一部分波蘭に這入つたのであります。此の區域は鑛産物の多い處で、石炭は七八割は波蘭の方に這入つたのであります。是は鐵石炭に餘り關係ありませんが、ポーゼンの區域が波蘭に這入り、ダンチツヒが、自由港となり獨立シメメルがリシユニアに入り、シユレスウキヒ・ホルスタインの區域が丁抹に這入り、オイペン、マルメヂーの區域が白耳義に這入り面積の一割以上を失つたのであります。其鑛物の上に大なる打撃を受けたのはアルサス、ロレーン及上部シレジアで殊にロレーンの鐵鑛及び上部シレジアの石炭は實に巨大のものであります。

佛蘭西はと申しますと、既に千八百十五年にザールを千八百七十一年にアルサス、ロレーンを獨逸に讓渡し、石炭の多くないのにザール及ロレーン炭田を失ひ、ナンシーの區域を除きロレーンで知られて居りました鐵鑛を失ひて鐵鑛及石炭

は殆んどなくなつて非常に苦しい悲境に陥つたのであります。併し之に屈しませんで、地質學上の見地からして試錐をやりまして鐵鑛及石炭を發見いたしました、即ち鐵鑛では獨逸に讓つたロートリンゲンに連つて居る、ロレーンで試錐の結果新に鐵鑛を發見し其量は獨逸に讓つたより多いのであります。石炭では露頭の無い北部炭田に試錐して石炭を發見し又、ロレーン炭田の續きと考へらる、ポントムーンズンに試錐して此處にも石炭を發見したのであります。斯く非常な努力で發見しまして鐵鑛では豊富であることが分りましたが、石炭は其量が他の三國に比して大に劣つて居るのであります。是から圖に付て埋藏量と産出額とを説明致します。

鐵	埋藏量/年次		産出額	
	一八七〇	一九一三	一八七〇	一九一三
英	一、三〇〇・〇	一、七三〇	一、七三〇	一、七三〇
米	四、二五七・八	八、五〇〇	八、五〇〇	八、五〇〇
獨	三、八七七・七	四、四〇〇	四、四〇〇	四、四〇〇
佛	三、〇〇〇・〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇
佛	三、〇〇〇・〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇
石炭	一、八七一	一、八八一	一、八八一	一、八八一
英	一、八七一	一、八八一	一、八八一	一、八八一
米	一、八七一	一、八八一	一、八八一	一、八八一
獨	一、八七一	一、八八一	一、八八一	一、八八一
佛	一、八七一	一、八八一	一、八八一	一、八八一

圖に大戰前大戰中及大戰後に區別をして産出額を擧げてあります。大戰前の千九百十三年の石炭の産出額は合衆國五億

噸を超過して居る。英吉利は三億噸に近く、二億九千萬噸以上、獨逸が二億七千萬噸、佛蘭西はずつと少なく四千萬噸、其下に日本を入れて置きました、埋藏量を申しますと、佛蘭西は漸く百七十六億噸であります。英吉利は千八百九百億噸で、獨逸は四千二百億噸であります。合衆國は三兆八千三百億噸と云ふ殆ど比較にならぬ程大きいのであります。

千八百七十一年即ち普佛戦争後からの産出額が入れてあるのであります。毎十年の産出額の増加の比はどうなつて居るか云ふと、世界を通じましたのが五割、即ち十年毎に百五十になつて居ります。合衆國が百九十一、殆ど倍に増加して居ります。英吉利が百二十三、即ち世界を通じたるもの言ひ換ゆれば平均以下である。獨逸が百五十七、是は平均を少し越して居り、佛蘭西が百三十一であります。斯う云ふやうに埋藏量と産出額と及び埋藏量と増加の比とは離るべからざる關係を持つて居るのであります。少し横道に這入りますが世界の増加が百五十でありますから、百五十以上に増加した國は其鑛業が發達し、百五十以下の増加に對しては其鑛業が衰へるのであると私は考へて居ります。英吉利は千八百九億噸の埋藏量に對し現に二億九千噸以上を採掘して居るが、此量は埋藏量に對して最高であると考へらるゝのである。故に私が最高と云ふのは世界の平均に對して言ふので是れ以上に産出しないと云ふの意ではない、又佛蘭西の一年の四千萬噸の採掘量も亦英吉利と同じく最高であると稱すべきであります。圖により増加の關係が明かに見えて居るのであります。

鐵はと申しますと、日本は殆ど數の中に這入りませぬ、石炭の方は埋藏量は百億噸ばかりで産出額が、二三千萬噸、佛

蘭西に稍近いが併し其半分乃至三分二であります。鐵の方は殆ど問題にならないので表には入れませぬ、普佛戦争の時に於て英吉利は既に千六百萬噸の鑛石を産出し、七百萬噸近い銑鐵を産出して居つたのであります。それが大戰前の千九百十三年も餘り違はぬ、寧ろ減つて居るやうな有様で、表に見ゆる通りであります。即ち英吉利鐵鑛の埋藏量十三億噸に對して産出額千六百萬噸と云ふのは、極度であつて増加せずして寧ろ減退の状態にあると言へるのであります。

佛蘭西は前申しました様に普佛戦争後にローレンの大鐵鑛地を發見しまして、特に近年鐵鑛の産出額が非常に増加を致しまして、普佛戦争後の千八百七十一年には極く僅か鐵鑛の産出額が二百萬噸でありましたが、大戰前の千九百十三年には二千萬噸を超過して居るのであります。併し石炭が多くありませぬ故に鐵鑛を多量に白耳義及び獨逸に輸出して居りまして銑鐵の産出額漸く五百萬噸を超過して居る程度に止まつて居つたのであります。圖で見へます如く初めは銑鐵と鐵鑛とが並行して居りますけれども、近年になりまして鐵鑛がずつと増加する割合に銑鐵が増加せずして兩者の差が甚だしくなる、是は近年鐵鑛の輸出の多いことを示すのであります。英吉利は普佛戦争後には鐵鑛と銑との差が可なり大きいが、近年は兩者が近くなつて居る。是は鐵鑛の産出額が増加せずして鐵鑛の輸入の増加を示すのである。今や英吉利は鐵鑛の輸入により僅に銑鋼の産出額を維持して居る有様であります。

獨逸は三十八億噸の鐵鑛を埋藏して居りまして、産出額は大に増加して居り、大戰前の千九百十三年には三千五百萬

噸……是はルクセンブルグを含んで居りますが、……の鐵鑛石を産出して居る上に多量の鐵鑛を輸入して銑鐵が千九百萬噸を産出して居るのであります。

斯う云ふやうに、其國に埋藏量が多い邦國には産出額が多いのであります。普佛戦争後より其毎十年の増加の比を見まするに世界を通じて、鐵鑛が百四十八である……此増加率の計算は……石炭も同じでありますが……私は斯う云ふやうに致しました、即ち毎十年の産出額を比較したものと、それから十年間の産出額を加算し比較したものとを加へ二分したのであります、而して毎十年の産出額の比と加算したものととの比は其差が甚だ少ないのであります。即ち増加の比は世界の鐵鑛が百四十八、銑鐵が百五十二になつたのであります。合衆國は鐵鑛が二百一、銑鐵が二百一、即ち毎十年に倍以上になつて居る。獨逸は鐵鑛百六十二、銑鐵百七十七、是は鐵鑛の輸入の多いことを示して居る。英吉利は鐵鑛が九十九、即ち鐵鑛の産出額は減つて居る。銑鐵は百十二、十年間に僅に一割ばかり増加して居ります。是亦鐵鑛の輸入の多いことを示して居る。佛蘭西は鐵鑛百六十九、銑鐵が百四十三、是は鐵鑛を輸出して居るのを示して居るのであります。斯く英吉利本國は既に鐵鑛に於きましても、亦銑鐵に於きましても其産出額は下り坂になつて居るのであります。

石炭 (單位百萬噸) 千九百十三年の狀況

國名	埋藏量	産出額	純輸出	純輸入	消費額
英	1,250,000	110,000	110,000	0	110,000
佛	1,200,000	110,000	0	110,000	110,000

英佛獨逸の鐵及石炭に就て

獨逸	佛蘭西	英吉利	獨逸	佛蘭西	英吉利
43,000	5,000	1,250,000	110,000	110,000	110,000
1,250,000	1,200,000	1,250,000	110,000	110,000	110,000

鐵 (單位百萬噸) 千九百十三年の狀況

國名	鐵鑛埋藏量	鐵鑛産出額	純輸出	純輸入	鐵鑛消費額	銑	鋼
英	1,250,000	110,000	110,000	0	110,000	7.6	10.5
佛	1,200,000	110,000	0	110,000	110,000	8.7	11.0
獨逸	162,000	162,000	162,000	0	162,000	12.1	15.3
佛蘭西	169,000	169,000	0	169,000	169,000	14.3	19.0
獨逸	177,000	177,000	177,000	0	177,000	17.7	22.9

戦争中にどれだけの石炭を使ひ、又鐵を使つたかと云ふことを英佛の聯合國、獨逸の同盟國の兩方に就て見まするには大戦前の千九百十三年の狀況により推測するのであります。石炭であります、埋藏量は英吉利が千八百九十五億噸、佛蘭西が百七十六億噸兩國合して二千七十一億噸であります。獨逸の方では獨逸が四千二百三十四億噸、埃地利が五百三十九億噸、合計しまして四千七百七十三億噸であります。産出額は英吉利が二億九千二百萬噸、佛蘭西が四千百萬噸、合して三億三千三百萬噸、獨逸が二億七千百萬噸、埃地利が五千四百萬噸、合して三億三千一百萬噸でありまして、戦争前には英佛及獨逸で産出額は略々同じであります。輸出入を見ると、純輸出で英吉利は九千九百萬噸、純輸入で佛蘭西が一千七百萬噸であります。獨逸は純輸出が千七百萬噸、埃地利は純輸入が六百萬噸であります。差引をした量は消費額で即ち戦争前には、英佛が二億五千萬噸、獨逸が三億二千萬噸の石炭を消費して居つたので、獨逸が英佛より多量の石炭を消費して居つたのであります。

鐵の方になりますと、鐵鑛埋藏量に於ては英吉利が十三億

ルグが二百四十萬噸、上部シレジアが百萬噸を産出したのでありますから此等の地域が離れますと産出噸は一千萬噸に減ずるのであります。鋼鐵の方は産出額が千九百萬噸である、此内ザールの二百十萬噸、ロレーンの二百三十萬噸、ルクセンブルグの百三十萬噸上部シレジアの百四十萬噸を除きますと千二百萬噸に減ずるのであります。

佛蘭西は之に反しまして、ロレーンが加はりザールが其管理になつて居りますからして、鐵鑛が四千三百萬噸、銑鐵の方は一千萬噸、鋼鐵が九百萬噸に増加するのであります。産出額は前の圖事實は斯く増加しては居らぬのであります。産出額は前の圖にありますが、説明するまでもありません。

(單位百萬噸)

國	鐵鑛埋藏量		產出額		石炭埋藏量		產出額	
	鐵	銑	鐵	銑	石炭	銑	鐵	銑
佛蘭西	三、三〇〇	一、三二八	五、三三三	四、四一七	一、七五八	一、四〇九		
ザール	二、三〇〇	九三三	三、九一四	二、二二二	一、六五八	二、六二五		
新佛國即ち計	五、六〇〇	二、二六〇	九、二四七	六、六三九	三、四一七	四、〇三四		
新佛國								
一九一九年			九、四二四	六、二二二	三、四一七	三、三〇〇		
一九二〇年			一三、九三三	八、〇〇〇	三、四一七	三、五三三		
一九二一年			一四、〇一四	八、〇〇〇	三、四一七	三、五三三		
一九二二年			一〇、八五一	五、一四五	三、四一七	三、五三三		
一九二三年			一三、四四五	七、四八八	三、四一七	三、五三三		
ザール								
一九二〇年	九、二		一九二二年	一、一	一九二〇年	一、三	一九二〇年	一、〇
一九二一年	九、三		一九二三年	〇、九	一九二一年	一、〇	一九二一年	八、九

此石炭の方は佛蘭西がザールとロレーンを得ました結果百

六十五億噸の石炭埋藏量を加へましたから石炭埋藏量は三百四十一億噸に達しましたが産出額は漸く千九百二十三年に戦前の四千百萬噸に戻り掛つて來た程度であります。英米は大戦前と少しも其領域に變りがありません、英吉利の産出額は二億七八千萬噸であります。千九百二十一年に特に減りましたのは、同盟罷業の結果であります。千九百二十二年に合衆國の減りましたのも、同盟罷業の影響であります。千九百二十三年に獨逸の産出額は非常に減りまして一億八千萬噸ばかりになりましたのは、ルールを佛蘭西が占領した結果であります。

(單位百萬噸)

國	鐵鑛埋藏量		產出額		石炭埋藏量		產出額	
	鐵	銑	鐵	銑	石炭	銑	鐵	銑
英	一、六三三	一、〇〇六	二、二五五	一、二一九	三、五〇〇	七、〇〇〇	二、一〇〇	七、六〇〇
米	七、八〇〇	八、〇〇〇	九、九二二	一〇、〇〇〇	一、五五九	二、三三〇	二、三三〇	二、三三〇
獨逸	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
一九一九年			三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
一九二〇年			三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
一九二一年			三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
一九二二年			三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
一九二三年			三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三

獨逸は石炭の千六百億噸を埋藏する上部シレジアの炭田の八割を波蘭に譲りザール及ロレーン炭田を失ひましたけれども、尙二千七百四十億噸の石炭を埋藏して居りまして、英吉利よりはずつと多いのであります。産出額はまだ英吉利に及びませぬが次第に増加するだらうと考へます。産出額は圖にありますから茲には述べませぬ。

鐵になりますと、獨逸は先程申しましたやうに第一のロレ

インを失ひ是が佛蘭西に這入つた結果佛蘭西の鐵鑛の產出額が大戦後次第に増加しまして、千九百二十三年に大战前より二千三百萬噸を超過したのであります。英吉利は千九百二十一年に同盟罷業の結果鐵鑛及銑鋼の產出額が非常に減つたのであります。千九百二十三年には稍恢復したのであります。獨逸は鑛石の產出額は分りませぬが、銑鐵は千九百二十二年には六百萬噸を越しまして、佛蘭西の上にあつたのであります。昨千九百二十三年は佛蘭西にルールを占領せられた爲に非常に減りまして五百萬噸が缺けるやうになつたのであります。以上申述べました如く產出額の多い所は隨て埋藏量が多い、又埋藏量の割合に產出額の多い所は其増加が遅いのである。

是で圖の説明は大體終りましたのであります。序に亞米利加と歐羅巴との關係を申し述べますと、千九百十三年には石炭の產出額が歐羅巴が七億四千萬噸、合衆國が五億千七百萬噸でありまして、歐羅巴が遙かに多かつたのであります。千九百二十年には、歐羅巴が五億八千一百萬噸になつて、合衆國が五億九千七百萬噸、即ち合衆國が多かつた、昨千九百二十三年には歐羅巴が六億四千萬噸に増加し、合衆國が五億八千一百萬噸、即ち歐羅巴が多くなつて來たのであります。併し燃料の問題となりて石油を加へますと、之は比較にならぬ程合衆國が多いのであります。即ち昨千九百二十三年の石油產出額十億バレルの内七億バレルは合衆國から產出したのであります。鐵の方になると、是は非常な違ひでありまして、銑鐵を申しますと、千九百十三年に歐羅巴が四千三百萬噸、合衆國が三千一百萬噸でありましたが千九百二十年には

合衆國の三千八百萬噸に對し歐羅巴が二千一百萬噸、千九百二十三年には合衆國の四千萬噸に對し歐羅巴が二千二百萬噸でありまして、非常に合衆國が優勢であります。詰り燃料及び鐵に於て合衆國が獨り羈を唱へて居ると云ふ有様であります。

(單位百萬噸)

石炭	英	獨	佛	北米合衆國	歐洲	世界
一九一三年	二九二	二七七	四一	五一七	七三〇	一、三四三
一九二〇年	二三三	二四三	二五	五九七	五八一	一、三一九
一九二三年	二八三	一八〇	三九	五八一	六四一	一、三三七

銑

一九一三年	一一	一九	五	三一	四四	七九
一九二〇年	八	六	三	三八	二一	六一
一九二三年	八	五	五	四〇	二二	六六

鋼

一九一三年	八	一九	四	三一	四三	七六
一九二〇年	九	八	三	四三	二〇	六五
一九二三年	九	五	五	四三	二四	七一

更に前申しました四箇國の產出額を擧げますと、石炭を申しますと、千九百二十三年十三億三千七百萬噸の石炭の世界總產出額の中で、以上申しました、四箇國の產出額が十億八千三百萬噸である。銑鐵で申しますと六千五百五十萬噸の中で五千八百萬噸が以上擧げました四箇國の產出額でありまして、是等の四箇國が世界の鐵石炭の牛耳を執つて居り其中で合衆國が其大部分を出して居ると云ふやうな有様で、何も彼も合衆國々々と云ふやうなことに自然になるのであります。唯こゝで一言申述べて置きますが私は英吉利の產出額が先程減退すると云ふことを申し上げましたが、是は英吉利本國

だけのことを申し上げたので、英吉利は御承知の通りに殖民地があり、自治領があり、是等を合して申し上げますと考へは自ら異なるのでありまして其實力の如何は別のことで私の今こゝで述べることゝは全く關係のないのであります。

元々私が鐵石炭のことを調べましたのは日本の鐵石炭石油の自給自足即ち獨立を如何にすべきやと云ふことから始まりましたのであります。今回の如き大戦争が將來ある筋のものでもありませぬし、又あつてもならぬと思ひますが、斯の如き大戦争が出来た場合にはどうする、併し翻つて考へて見ますると、戦争は起らなくても、平時に要るだけのものが戦時に要る、又其平時に消費する量に依りまして其國の盛衰に大なる關係があると考へます、どうしても獨立と云ふことの考へをどこに置いたら宜いかと切に考へなくてはならぬと考へるのであります。私は世間の事は何も知りませぬからどう云ふやうな工合に處理して行つたら宜いかと云ふことは無論私には分りませぬ。日本の石炭鑛業、鐵鑛業に付きまして時々聞くことがあります。又此協會などでも或時は鐵鑛業の獨立期して待つべしと云ふやうな議論のあつたこともありませぬ、それが暫くすること鐵鑛業は大に保護しなければならぬ、關稅をどうしなければならぬ又は製鐵業合同などと云ふやうな議論を聞くのであります。聽く度にさうかと思ふのであります、又餘りに變化が烈しい様にも思ふのであります。是は飛んだ脱線であります、以上申述べました様な次第で私の目的は唯埋藏量の多い所には産出額が多いと云ふことを數字に付て指示するのでありまして、下らぬことまで申上げまして甚だ恐縮であります。

(一同拍手) (終)

佛獨製鐵合同問題

最近市内某所入電に依れば佛獨通商條約の協商進捗と共に佛獨間の鋼鐵並に石炭大合同の交渉が成立するに至つた由である、曩に報ぜられた歐洲鋼鐵組合と如何なる關係あるものかはなほ判明しないが其内容左の如し。

一、獨逸はルール炭を特別安價を以てアルサス、ロレーン並にルクセンブルクの製鐵業者に提供し、安價なる原鐵並に該地方の安價なる勞銀を以て安價なる半製品を製造せしむる

二、獨逸は其の代價として該原鐵、半製品を獲得し之を鋼鐵製品として販賣する

其の成否は別として歐洲製鋼業の大合同は既に十分其の可能性ありと當業者間にも注目され來つた事であるから果して該入電が事實を報じたものとするならば該合同は蓋し世界鋼鐵市場を支配するに至るものであらう。一説によると該合同計畫は佛國製鐵組合代表者ウエンデル氏と獨逸ルール側代表者チツセン、フエーグラー兩氏の間に締結されたもので佛國政府も既に該計畫の成立を承認して居るも只英佛間の外交關係を恐れて佛獨通商條約成立迄該計畫の公表を禁じて居るとも傳へられて居る。又英國製鐵業者は該計畫を聞知すると同時に大合同に加入したとの事であるが全歐洲の製鐵聯合たらしめる事には大反對を唱へて居る由であるが、兎角該問題は經濟的のみならず政治的にも注目されて居るとの事である。